

第4回福島イノベーション・コースト構想推進本部会議 議事録

■日時：平成29年11月20日（月）9：15～9：25

■場所：特別室（本庁舎2階）

【鈴木副知事】

ただ今から、第4回福島イノベーション・コースト構想推進本部会議を開催します。

早速、報告事項「福島ロボットテストフィールド」について、商工労働部長。

【商工労働部長】

資料1「福島ロボットテストフィールド各施設の開所見込時期・研究棟完成予想図について」を御覧ください。

設計が進みまして、開所見込時期及び研究棟完成予想図をお示しすることができる段階になりましたので、今回報告をするものです。

1ページ目について、「福島ロボットテストフィールド」の全景です。「無人航空機エリア」、「インフラ点検・災害対応エリア」、「水中・水上ロボットエリア」、「開発基盤エリア」の4つのエリアに合計15の施設を整備いたします。

2ページですが、各施設の開所見込時期となります。「無人航空機エリア」の7施設につきましては、2018年度第1四半期に「広域飛行区域・通信塔」を開所いたします。それを皮切りに、2019年度第1四半期には南相馬市に「滑走路」、第3四半期には「緩衝ネット付飛行場」、第4四半期には浪江町に「滑走路」の整備など、順次開所していく予定です。

「インフラ点検・災害対応エリア」につきましても、ワールドロボットサミットの会場となる「試験用プラント」が2018年度第3四半期に開所します。それ以降、2019年度第3四半期に「試験用トンネル」や第4四半期に「試験用橋梁」等を開所いたします。

「水中・水上ロボットエリア」の2施設につきましては、大規模な施設でありますので、開所時期は、2019年度第4四半期となります。

一番下の「開発基盤エリア」につきましては、福島ロボットテストフィールドの本館機能を有する「研究棟」です。これは、2019年度第2四半期に開所する予定です。

以上、2018年度から2019年度にかけて、15の施設を順次開所してまいります。

3ページをお開きください。福島ロボットテストフィールドの「研究棟」外観図です。「研究棟」は、延べ床面積約7,600㎡、RC造2階建ての建物で、

福島ロボットテストフィールドの本館機能を有するほか、各試験の準備、加工・計測、ロボットの風雨、振動、電波等に対する性能試験を行うことができます。

また、研究者への研究室の貸出、大規模会議、展示会などの開催も可能です。

4ページ目、鳥瞰図ですが、中央にある建物には加工室や計測室、研究室や会議室が、白い屋根の部分の中庭を囲んで配置され、中庭では、ロボットの屋外試験も可能となっております。また、図面左上の黒い屋根の建物は屋内試験棟で、約30メートル四方、高さ10メートルの広い空間を活用して、屋内試験を行うことができます。

5ページをお開きください。研究棟の内観図で、研究棟入口からエントランスホールを望んだものになります。エントランスホールは、国内外から集まるロボットの研究者や企業の方々が交流しやすい開放的な空間となっております。左手に白い屋根が見えますが、中庭と連結して広いスペースを確保し、ロボットの展示会を開くことも可能です。

この研究棟につきましては、工事の入札が終了し、契約に向けた手続きを進めているところであります。

次に、参考資料を御覧ください。ただ今御報告した内容を集約したパンフレットを作成しましたので、本日公開いたします。

以上、引き続き、国や地元自治体等と密接に連携を図りながら、着実に整備を進め、福島イノベーション・コースト構想の実現に向け、全力で取り組んでまいります。

私からは以上です。

【鈴木副知事】

今の説明に関して、何かありますか。なければ、知事からお願いいたします。

【内堀知事】

福島ロボットテストフィールドは、物流やインフラ点検、災害対応など、陸・海・空にわたるロボットの開発や実証、評価、訓練の場を提供する、世界に類をみないロボット開発拠点として、大きな期待が寄せられています。

地元の南相馬市や浪江町を始め、関係機関と連携しながら、2018年度からの順次開所に向け、着実に整備を進めてください。

以上です。

【鈴木副知事】

以上で本部会議を閉じます。